

昭和62年1月13日

上智大学学生寮寮生総意

上智大学学生寮—ここに全国津々浦々、国境をも越えて、互いに異なる文化・環境に育まれた240名余りの若人が集う。

ここで我々は、個々様々な考え方を持つ人間とめぐりあい、一つの屋根の下で大学生活における多くの時間を共有し、互いのふれ合いが「仲間」意識を芽生えさせ、家庭的つながりを生む。いずれ社会へと巣だってゆく我々にとって、学生時代はあらゆる場で自己の可能性を見だし、人格の向上を目指して努力するときであり、互いが切磋琢磨し合ってきた伝統を持つこの寮は、まさに全人格的な人間形成の格好な場といえる。大学生活の基礎をこの寮と選んだ我々は、寮の持つこのような性格を再認識し、心の支えに求めたいと思う。我々は30年にわたる歳月が培ってきた寮の良き伝統を踏まえ、新なる寮の未来を創造しようと努めてきた。寮と寮生の一層の前進を望み、以下に掲げることをここに確認する。

1・学業面の一層の向上

寮生各自は目標を明確に定め、集団生活からくる甘えを克服し、学業に励む。また相互に勉学の妨げにならぬよう、寮則第4条「寮内の歩行は静粛にし、特に11時以降の騒音をさけること」を厳守し、寮全体として今まで以上に勉学の雰囲気づくりに努力する。我々は寮という環境を有効に活用し、互いに啓発し合い、学業の向上に努力する。

2・諸活動への積極的取り組み

我々は小さな社会としての意味を持つ寮内で生活することにより、周囲に対して積極的に自己を表現し、また貢献してゆく姿勢を学び得る。我々は社会の中で自己を生かし得る人間として、寮外の諸活動においても積極的に取り組み、中心的な役割を担ってゆかなければならない。なかでも、我々独自の旺盛なるバイタリティーと愛校心を持って、上智大学の諸活動を活性化してゆくよう努力する。

3・寮生間コミュニケーションの重視

我々は、共同生活の中で互いに影響し合うことにより人格形成をなし得る。また我が学生寮は、諸外国からの留学生も多く、国際的視野を身につける機会にも恵まれている。そこで寮生全般にわたり人間関係を深めるため、コミュニケーションの場を多く創造し、寮生間の縦横の関係をより親密なものとするよう尽くさなければならない。このことは国際感覚をも兼ね備えた人間の育成につながるものである。具体的には、日常生活におけるコミュニケーションを円滑にするために、まず基本的な礼儀や挨拶を心がけて実践してゆく。そのうえで寮サークルの活動・委員会活動・寮行事などをさらに活性化してゆくよう努める。

我々は、その自覚と責任において新なる伝統の構築と、寮生の自発性からなる寮の本質的発展を目指す。

以上を上智大学学生寮寮生の総意とする。